



【特集】

技

昭和初期の古民家を現代感覚溢れる快適空間に 水まわりの全リフォームと、趣味の部屋の新設

●一冬過ぎて、暖かさを実感

岐阜県飛騨市宮川町のダム湖畔に佇むM様のお宅は、昭和の初めに建てられた古民家。郷愁を誘う建物だが、水まわりの老朽化が激しく、特に汲み取り式トイレの使いづらさがリフォームを決心させるきっかけとなった。

「リフォーム箇所は、母屋がダイニングキッチンと浴室、トイレ、玄関の一部。それに加えて別棟の納屋の二階をリフォームしてスキートのチューンナップルームを新設した点が大きな特徴です。雪が多いところなのでとにかく暖かい家にしたかったですね」とご主人。

まず、玄関脇の真新しい白漆喰と木の腰板が目を引く母屋へ。外観は古民家の味わいを残しつつ、建物の三分の一ほどに手が加えられている。玄関に入る



▲昭和初期に建てられたM邸は、山間地の風雪に長年耐えてきた。右はチューンナップルームを設けた納屋。



▲キッチン家事動線もスムーズ。

▲食事はいつものこの一枚板のカウンターで。



▲天井を張らず、屋根の勾配と梁を見せたダイニング。



▲バイスを取り付けた特注の作業台を設けたスキートのチューンナップルーム



▲ヒノキの香りに満ちた水洗トイレ。



▲チューンナップルームの横に設けられたルームにはソファが置かれている。

に作業の様子を眺めることもできる。天井を見上げると、梁がそのままに。「天井を外すと三本の梁が現れたので、これを部屋のアクセントにしました」と施工担当者。既存のいいものを活かしながら、新しいアイデアを加え、住みやすくしていこうとする姿勢。ここにリフォームの原点を見る思いがした。

と、訪問者をやさしく迎えてくれる木の温もり。懐かしさと新しさを融合させた手技が見事といえる。

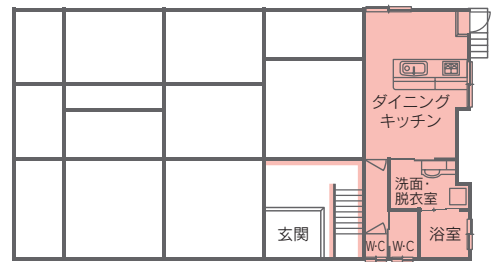


▲古民家ならではの温もりが感じられる玄関。

●剥き出しの梁がアクセント

奥に入ると、左手は既存の部分、右手がリフォーム箇所。約十五帖のダイニンググキッチンはホワイトとブラウンを基調にした明るい空間で、剥き出しの梁と勾配天井が情調を醸し出している。古民家調に仕上がっており、旧の部分とのバランスのとれた意匠に感心させられる。腰板には堅い材質のタモ材を使用。素

朴な風合いの中にも力強さが感じられる。対面式キッチンのダイニング側には一枚板のカウンターが設けられており、食事の楽しい光景が目に見えらる。キッチンにはIHクッキングヒーターなども検討されたが、雪深いこの地では雪崩や倒木などによって道路沿いの電線が断線することもあり、これまでと同じブ口パンガスを使用することになった。



母屋平面図

●リフォーム箇所

●ヒノキの香りで快適な朝

念願の水洗トイレは男性用と便座の二つを設け、清潔感いっぱいの明るい空間に生まれ変わった。腰板にヒノキが採用されており、木の香りが清々しい。抗菌や調湿などの効果も大いに期待できるという。限られたスペースにトイレレットペーパーなどの収納棚や手摺りなどが設けられ、使い勝手がよさそうだ。

脱衣室は、大きめの洗面化粧台と洗濯機が印象的。天井には、夜光塗料によって照明を落とすと星がきらめくというユニークな演出がなされている。浴室も明るく広々とした空間。温かい湯に満ちたバスタブに浸かると、心身ともにリフレッシュできそう。

●男同士で語り合う趣味の部屋

「リフォームで一番うれしかったのは、スキートのチューンナップルーム」と話すご主人に案内されて納屋の二階へ。中学年の息子さんがワックスを塗ったばかりのスキー板やコンプレッサ、チューンナップのための道具類が置かれ、ご主人と息子さんたちの趣味の部屋といった雰囲気。奥には、大きなガラスで仕切られたルームも設けられており、ガラス越しに作業の様子を眺めることもできる。天井を見上げると、梁がそのままに。「天井を外すと三本の梁が現れたので、これを部屋のアクセントにしました」と施工担当者。既存のいいものを活かしながら、新しいアイデアを加え、住みやすくしていこうとする姿勢。ここにリフォームの原点を見る思いがした。

今月のオーナー訪問



岐阜県飛騨市 M様

『趣味の部屋に大満足！』

中学生の長男がジャイアントスラロームの競技に出場して、スキートのチューンナップルームを作ってやりたかったんです。私と息子たちの趣味の部屋という感じで満足いくものに仕上がりました。最初は一つの部屋の予定でしたが、作業中にワックスなどのほりが立つので大きなガラスで仕切ることになりました。この設計も良かったですね。施工担当者に感謝しています。



技のリフォーム

イワザ ミセマス

0120-183-304

